

KANZE

観世



二十六世観世宗家 観世清和師
日本芸術院会員就任記念インタビュー

【特集曲】布留
〈布留〉の舞

高桑いづみ

連載 謹訳 能の本 布留(上)

林 望

連載 能に描かれる愛のかたち
光源氏をめぐる愛

松村栄子

5-6

May - June
2023

観世

令和五年 五・六月号

題字・二十五世観世左近 表紙デザイン・阿部壽

目次

観世会定期能(五月)	12
福岡観世会定期能(五月)	13
荒磯GINZA能	
特別公演(五月)	14
京都観世会例会(五月)	15
観世会定期能(六月)	16
荒磯GINZA能(六月)	17
大阪観世会定期能(六月)	18
京都観世会例会(六月)	19
京都観世会	
復曲試演の会(六月)	20
観世グラフ	1 } 10

二十六世観世宗家 観世清和師

日本芸術院会員 就任記念 インタビュー ————— 22

巻頭随筆・人間関係と能 ——— 小坂敬 26

連載・謹訳 能の本(九十二) 布留(上) ——— 林望 28

【特集曲】布留〈布留〉の舞 ——— 高桑いづみ 36

連載・能に描かれる愛のかたち(七)

光源氏をめぐる愛 ——— 松村栄子 46

窓 ——— 54

催し案内 ——— 57

五月・六月の番組

観世グラフの記録

編集後記 ——— 80

79 58

二十六世観世宗家 観世清和師 日本芸術院会員 就任記念 インタビュー

——この度は日本芸術院会員御就任おめでとうございます。
ます。

ありがとうございます。令和五年三月一日付文部
科学大臣より任命を受けました。今まで通り能楽師
として舞台活動、稽古に励むと同時に、「芸術の発
達に寄与する活動を行うとともに、芸術に関する重
要事項を審議し、これを文部科学大臣または文化庁
長官に意見具申する」という御役割をしっかりと果

たして参りたいと考えております。

——どのような活動をお考えでしょうか。
日本芸術院令に基づく非常勤国家公務員となりま
す。「講演やワークショップ等、対外発信や後進の
育成等、文化芸術の振興のために積極的に活動でき
ること」「我が国の芸術に関する課題について積極
的に問題提起や意見具申ができること」などが求め

〈布留〉の舞

● 高桑いづみ

はじめに

観世文庫所蔵の世阿弥自筆能本に、〈布留ふる〉という作品がある。応永三十五（一四二八）年二月の奥書を持ち、ところどころに朱でゴマや「下」「クリ」などの直シが記入されているが細かい節付ケはない。『申楽談儀』に初同について言及があるので上演されたのかもしれないが、記録には残っていない。一方、観世文庫には享保六（一七二二）年はつとりしゅうせつ服部周雪筆の奥書を持つ番写謡本が残されており、そこにはゴマや間拍子などの記載がある。奏演を試みたのであろう。その後、十五世観世元章によって〈阿古屋松〉（松浦（佐用姫））とともに明和改正謡本に組み込ま

れたが、明和本の廃止とともに現行曲から外された。その後、一九八四年十一月・十二月に第十五回橋の会が山本順之師のシテで復曲上演するまで、舞台上上げられることはなかった。〈布留〉では後シテ女神が舞を舞う。「舞楽ノ躰ナルヘシ 大コウツヘシ¹」と自筆能本に指示があるのだが、女神はどのような舞を舞ったのだろうか。これが筆者に与えられた課題である。

一、〈布留〉とは

作品の舞台となる石上神宮いそのかみは『日本書紀』第十七代履中天皇りちゅうの条に「石上振神宮」と記す古社で、山辺郡山辺村、現在の奈良県天理市に鎮座する。主祭